



○茎立期は 平年よりやや遅い(3月中旬頃) 見込みです！

12月、1月が少雨であったため生育はやや緩慢です。

11月の適期播種の分けつは平年並み～やや遅いが、有効茎はほぼ平年並みの確保が見込まれる。12月の遅播きは分けつが遅れ茎数が少なくなる見込みです。
(11/25は種：熊谷)

3/5 気象庁発表の1か月予報(3/7～4/6)によると、寒気の影響が弱いため気温は平年並みか高い。降水量は少なく、日照時間が多い 見込みの予報です。

このため、茎立期は平年よりやや遅いが茎数が少ないままの茎立 の見込みです。

～ 早春の急激な気象変動 に対応した 麦づくり 3ポイント ～

ポイント1 「排水溝の補修」で、湿害による生育不良を回避!!

(1) 必ず排水対策を実施しましょう。

春は、大雨が予想されます。湿害による生育不良で収量・品質が決まります。
排水溝を補修して、排水路と連結しましょう。

ポイント2 「麦踏み」は、強い有効茎を確保する等の重要な作業!!

(1) 茎立期前までにあと1回 麦踏みを実施しましょう。

前回から10日～2週間空けて実施します。ただし、土が湿っている場合は、麦踏みは避けましょう。

「麦踏み」は、①根張りを良くする ②過繁茂を抑える ③無効茎を淘汰し、強い有効茎を確保する 等の効果あり、重要な作業です。

ポイント3 「第一回目の追肥(茎立期直前)」で、収量・品質大幅アップ!!

(1) さとのそら ⇒ 窒素成分量 3～4kg/10a

追肥の基本は、出穂2週間前ですが、機械散布が困難な場合は、茎立期直前に実施しましょう。

＜施肥例＞ けやきハイパワー MAX 20～30kg/10a

〔成分比：窒素15(うち石灰窒素4.5)・リン酸3・加里6〕

(2) ハナマンテン ⇒ 窒素成分量 2kg/10a

茎立期直前に実施しましょう。

＜施肥例＞ けやきハイパワー MAX 15kg/10a

※ ハナマンテン第2回目追肥(タンパク向上)のほ場巡回は、4月に実施予定しています。

第2回目追肥が実施できないほ場は、セラコートRスカイ 10kg/10a程度 で2回分の追肥を施用しましょう。

令和 8年産麦作期間の気象図(観測地:さいたま アメダス値)

令和8年3月5日現在

